

# 横浜開港資料館指定管理者選定委員会

## 議事要旨

## ◆第1回選定委員会

議題	1. 委員長の選任 2. 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の検討 3. 選定スケジュール、評価手順の確認
日時	平成17年7月4日（月）午後3時から午後5時まで
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	上山 和雄（國學院大學教授） 川口 徳治朗（神奈川県立歴史博物館 学芸部長） 齊藤 毅憲（横浜市立大学教授） 西田 由紀子（よこはま市民メセナ協会） 水嶋 英治（常盤大学大学院教授） 三谷 博（東京大学教授） 室谷 参（横浜市立小学校長会 並木第四小学長）

## 審議内容：○ 委員会運営決定事項

- ・川口徳治朗委員を委員長に決定
- ・今後の委員会の公開非公開の決定

## ○ 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準、公募要項の検討

## ＜業務基準について＞

- ・市としての文化財等施策の「基本方針」、施設の「業務基準」について
- ・専門性の担保について

## ＜公募要項について＞

- ・一次、二次の二段階方式、手順、スケジュールについて
- ・一次、二次の審査の方法、採点の分離、最低ライン設定について
- ・評価の点数化の方法について
- ・評価結果の応募者への伝達のあり方、審査報告書のあり方について
- ・具体的な評価ポイントの事前公表について
- ・透明性の確保について

## ＜提案課題について＞

- ・課題の内容について
- ・応募者の創意工夫を受け留める自由提案について

## ＜評価基準について＞

- ・評価の判断基準の共有化について
- ・経費削減、収支予算の評価について
- ・提案書類と実態能力の乖離を小さくする方法について
- ・ヒアリングのあり方について

## ○ 決定事項

- ・公募スケジュールの決定
- ・業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の決定

## ◆第2回選定委員会

議題	1. 一次審査 2. 一次審査通過団体の決定
日時	平成17年8月24日（水）午前9時30分から午前10時30分
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	川口委員長、上山委員、齊藤委員、西田委員、水嶋委員、三谷委員、室谷委員

審議内容：○経過の確認

- ・公募告知、要項等配布の状況
- ・公募説明会の参加状況、現場見学会の状況
- ・質疑応答の状況

○応募団体確認

- ・2団体の提案の確認
- ・欠格条項非該当の確認、経営診断の確認

○一次仮評価の検討

- ・評価得点の確認
- ・通過最低ラインの確認

○2団体からの一次提案書の審査

<アーカイブスと開港資料館のあり方について>

- ・A社はアーカイブスに重点を置いて、開港資料館のこれからのあり方を展開しているが、これについては評価が割れた。開港資料館の役割はアーカイブスではない、アーカイブスというならもっと違うあり方を提起すべき、アーカイブスを担う人材はそれほどいない、といった批判がなされた。開港資料館はもっと展示、市民に開かれた役割機能を持つべきという意見がなされた。
- ・アーカイブスという提案に次の姿を目指そうという意欲は評価できるという意見もあった。むしろB社がこれからの時代にどのような施設像を目指すのか、変革していくのかが見えないという指摘もなされた。

<開港のとらえかたについて>

- ・A社のアーカイブスへの特化は不適切であるが、B社の提案も、開港を時代期間としか捉えておらず、なぜ横浜ができたか、なぜ横浜が発展してきたかに考えが及んでいない。国際関係に対する視点も全く弱く、厳しい評価をせざるを得ないという指摘もなされた。

<150周年事業について>

- ・A社はあまり記述がなく、具体性がない点、この事業の重要性に鑑みると評価

は低くなるといった指摘がなされた。

<学校との連携について>

- ・両者ともに、見学という点にあまり重きが置かれていない。もっと子供、教職員、学校に目を向けてもらいたい、人があまり来ないなら来ない理由を考えた欲しいという意見があった。

<専門能力と組織体制について>

- ・専門性の確保、また専門性を高めていく仕組み、考課や評価という点で1社の提案はかなり問題のある評価がなされた。

<組織体制について>

- ・A社は研究会組織などを設けて、そこが決めていくような組織を提案しているが、主体性や責任性という点で疑問が提起された。

<危機管理について>

- ・大震災があるとすると、非常に貴重な資料が危険度の高いところにある。このことに対する危機管理体制が提案されていない点が問題であるとの指摘があった。

<全体として>

- ・両者とも努力した提案書であり、一定の水準は超えるものであるが、A社はアーカイブスに特化する方針自体が疑問が提起された。B社は安定的で安心感はあるが、これからの時代に向けた変革の意思や立地環境を活かす視点や市民ニーズへの対応、指定管理者に向けた強い意欲といった点では高い評価とはならないとされた。

○ 一次通過者の決定

- ・最終採点の結果、要項に定める一次審査通過の最低ラインを2社とも超えた。A社については、3以上評価の獲得率が96.4%、評価得点は1650点中1239点、B社については、3以上評価の獲得率が100%、評価得点は1650点中1428点であった。総合的な判断においても、それぞれに二次の提案、ヒアリングを行ってみたいという判断で全員が一致した。

■ 一次審査結果： 一次審査通過団体

株式会社乃村工藝社

財団法人横浜市ふるさと歴史財団

## ◆第3回選定委員会

議題	1. ヒアリング 2. 二次審査 3. 最優秀提案者の決定
日時	平成17年10月9日（日）午前9時30分から午前10時30分
開催場所	横浜開港資料館 講堂
出席者	川口委員長、上山委員、齊藤委員、西田委員、水嶋委員、三谷委員、室谷委員

審議内容：○ 経過の確認

- ・二次現場説明会の状況
- ・二次質疑応答の状況

○ 二次提案書提出応募団体確認

- ・1団体の辞退の確認

（株式会社乃村工藝社が二次事業計画書提出期限直前に辞退）

○ 二次仮評価の検討

- ・評価得点の確認
- ・通過最低ラインの確認

○ 一次通過1団体からの二次提案書に対するヒアリング

<開港資料館を一言で表現すると>

- ・いろいろ提案はあるが、一言でいうとどういう施設にしたいのかという質問に対して「近代横浜の記憶装置」という回答がなされた。

<市民協働事業について>

- ・市民協働事業を進めてきているとのことであるが、その課題と対策について質問がなされた。これまでは講座や講演会の開催などであったが、今後資料集の編纂などを計画していること、また、市民団体にアンケートなどを行い、可能性のある団体を把握し、それらと協議をはじめようとしているといった回答がなされた。

<市民協働事業の展開について>

- ・市民協働をより大きく広げていくにはどのような計画を持っているのかという質問に対して、糸口となる団体を増やし、それを核にして、広げて生きたいと回答があった。

<市史資料室との関係について>

- ・市史資料室との関係、その資料についての質問に対して、積極的に関わっていきたいと考えるが、具体的な事柄は市と協議していきたいと回答があった。

## &lt;館長の役割について&gt;

- ・館長の役割があまりにいくつもの役割を輻輳して担っていないか、特に、意思決定者であり、評価者ありというのは揺れすぎではないかという問いに対して、館の責任者として評価も担うと考えていると回答があった。これについては、副館長との分担ができていないのではないかと、責任範囲を明確にすべきであるとの意見があった。

## &lt;副館長の役割について&gt;

- ・副館長の役割が曖昧ではないかという質問に対して、館長が歴史学の専門家で非常勤職であるので、経営面を含めた総合的な立場から館長の補佐と課長以下の指揮統括を担うと考えていること、4館を兼務することが回答された。

## &lt;民間人の起用について&gt;

- ・民間経営ノウハウなどに言及されているが民間人起用などは取組まないのかという質問に、課題として入るが、現状では提案できるほどに具体化できなかったと回答された。

## &lt;人件費について&gt;

- ・人件費が五ヵ年一定であるが、モラル低下にならないかという質問に対して、定期昇給は想定し、それらは吸収する努力ができるということで、一定水準の維持を提案させていただいたと回答された。

## &lt;常設展示について&gt;

- ・常設展示の質が落ちているのではないかと、更新計画についての質問について、予算的な問題がり設置者の協議事項であるが、中長期に新たな研究成果などを取り入れる形で更新を検討していくことになるかと回答があった。

## &lt;多言語への対応について&gt;

- ・開港資料館の位置づけからするともっと多言語対応が必要ではないかという問いに対して、より多言語化に取り組むとともに、収集範囲を広げる、他文化圏の施設との協同などを進めたいと回答があった。

## &lt;成果の公表について&gt;

- ・優れた成果があるが、広く手に入れることが難しいものがあり、もっと一般普及を考えるべきではないかという質問に、考えて参りたいと回答があった。

## &lt;学校との連携について&gt;

- ・重点は来てもらいたいのか、学校のほうに出て行きたいのかいずれであるのかという質問に、情報の提供や出て行くほうであると回答があった。

## &lt;子供への取り組みについて&gt;

- ・収蔵資料を子供にみせるとかではなく、玉楠の木やこの施設の空間的な意味を体験させるといったことも重要ではないかという問いに対して、夏休みなどに、この施設に限らず関内地区全体をみて、史跡等を連携させてルートを作るなど取組みを始めていると回答があった。これに対して、そのような取組みは個々の子供を対象とするより学校をうまく活用することが有効ではないかという意見も提起された。

<他施設との連携について>

- ・財団所管施設の連携はかかれているが、もっと官民間わず、多様な施設との連携を図るべきではないか、といった質問に対して、そのような体制を作りたいと回答があった。

○ 二次審査

<組織の問題について>

- ・館長、副館長といった責任者の役割が曖昧で、だれが何に対して責任を持つのかを明確にする必要があるのではないかという指摘がなされた。

<全体として>

- ・いろいろ課題は指摘されたが、この施設の可能性から期待値が高いということもあり、全体としての水準は高く、指定管理者としてはふさわしいという議論がなされた。

○ 最優秀提案者の決定

- ・最終採点の結果、3以上獲得割合7割という最低基準ラインに対して100%、評価得点2800点中2112点と高い評価を獲得し、最優秀提案者として決定することに全員が一致した。

■二次審査結果： 最優秀提案者

財団法人横浜市ふるさと歴史財団